

研究分野のキーワード：ピアノ教育，音楽教育史，ピアノ演奏法

### 研究紹介

ピアノ教育は、現在も個人や音楽教室、大学などで行われているもので、実際に習いに行ったことがある、または現在進行形で習っている方もいらっしゃると思います。習ったことはないという方でも、見たり聴いたり触れたりしたことはある、とても身近な楽器ではないかと思えます。しかしこのピアノという楽器は、ご存じのとおり日本古来の楽器ではありません。西洋音楽と共に、輸入された楽器なのです。日本に入ってきて、公共の教育機関で教育が始まってから、まだ100年ほどしかたっていません。ピアノという楽器が、楽器として発展を遂げてくる中で、演奏法や曲も発展してきたヨーロッパとは異なり、日本のピアノ教育は、情報が整理されないまま入ってきた中で始まったと言えます。私の研究は、明治期に日本に入ってきてから、昭和初期くらいまでに、日本でどのようなピアノ教育が行われ、また、ピアノ教師がどのようなことを目指したのか、その教育を受けた者たちはその教えをどのように受け止めたのか、ということを知解くことを目指しています。

注目すべき視点は多々ありますが、その一つは教師の考えや意図が、学習者にどのように伝わり、そしてさらに伝えられたのかという流れです。何を伝えたかったのか、教えたかったのか、という教師側の考えは同じであったと思われる場合でも、受け取る側、教わる側の捉え方は必ずしも同じではありません。しかし一方で、演奏を聴くとどの教師の生徒であったかがわかる場合があるのも事実です。教師側と生徒側の双方を見ていくことにより、個人レッスンという場で何が伝えられるのか、という現在にも繋がる問題を考えることができます。ピアノ教育に限らず、歴史を振り返ってみることは現在の問題にも繋がることがあったり、現在にも活かすことのできる視点が潜んでいたりします。

このような研究と並行して、演奏活動も行っています。演奏形態は様々で、ピアノのソロ、ピアノデュオ、室内楽、伴奏などに取り組んでいます。ソロの活動では、シューベルト (Franz Schubert 1797-1828) のピアノ作品を演奏会で少しずつ取り上げ始めており、年月はかかりますが全曲を演奏したいと考えています。シューベルトというと何と言っても歌曲が有名ですが、音楽史の中ではピアノの作品も重要な位置を占めています。ピアノ曲ならではのシューベルトの魅力音を音で伝えることができるように、演奏していきたいと思っています。